

現場説明書

1 工事名 久里浜公園水泳プール解体工事
2 監督員 都市部 建築計画課 (建築)
(機械設備)

説明事項

1. 入札等に関する事項について

- (1) この工事の入札又は見積(以下「入札等」という。)は、工事請負契約書又は工事請負請書(以下「契約書等」という。)、入札公告又は指名競争入札執行通知書及びこの説明書に記載する条件により、横須賀市の契約規則、契約履行規則及び工事等検査規則(以下「契約規則等」という。)に従って行う。
- (2) 入札等後は、設計書、仕様書及び図面(この説明書及び質問回答書を含む。以下「設計図書」という。)、契約書等若しくは契約規則等の内容又は工事場所の状況について、不明等を理由として異議の申立てはできないので、入札等前に十分究明すること。

2. 契約の保証について

契約の保証 要 ~~—不要—~~
契約の保証を付す場合は、落札者は、契約書等の案を提出するとともに、次の各号のいずれかの書類を提示又は提出すること。ただし、契約保証金の額、保証金額又は保険金額は、請負代金額の100分の10以上とすること。

- (1) 契約保証金の納付を証する領収書
- (2) 契約保証金に代わる担保としての国債又は地方債等
- (3) 債務の不履行により生ずる損害金の支払を保証する銀行、市長が確実と認める金融機関又は公共工事の前払金保証事業に関する法律(昭和27年法律第184号)第2条第4項に規定する保証事業会社の保証書
- (4) 債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証証券
- (5) 債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約の証券

3. 前払金について

前払金 する ~~—しない—~~
前払金を受けようとする場合は、その旨を申し出ること。

4. 中間前払金について

中間前払金 する ~~—しない—~~
中間前払金を受けようとする場合は、申請手続が必要なので、要件を満たした旨を申し出ること。

5. 部分払について

部分払 ~~—する(—回以内)—~~ しない

6. 継続事業に係る工事の各会計年度別支払限度額及び前払金について

~~—(1) 継続事業に係る工事の各会計年度における請負代金額の支払限度額及び前払金の上限割合は、次のとおりである。—~~

会計年度	支払限度額 —(請負代金額に対する割合)—	前払金の上限
初年度 (—年度)—	%	支払限度額 ・ 請負代金額 の %
第2年度 (—年度)—	%	支払限度額 ・ 請負代金額 の %
第3年度 (—年度)—	%	支払限度額 ・ 請負代金額 の %

~~—(2) 各会計年度における請負代金額の支払限度額は、請負者決定後工事請負契約書を作成するまでに請負者に通知する。—~~

7. 契約に関する事項について

(1) 契約図書関係

- ア 土木工事等の場合における工種別等の契約数量は、設計書の数量の内訳書に表示された数量による。
- イ 仮設、工法等工事目的物を完成するために必要な一切の手段については、設計図書に特別の定めがある場合を除き、請負者の責任において定めること。
- ウ 契約の締結にあたっては、契約書等に設計図書を袋とじし、割印をすること。ただし、図面が大型等の場合にあつては、別冊とすること。

(2) 提出書類関係

- ア 請負代金内訳書 要提出(契約締結後7日以内)
提出不要
- イ 工 程 表 要提出(契約締結後7日以内)
提出不要
- ウ 着 手 届 着手後5日以内に提出すること。
- エ 現場代理人及び主任技術者等届 契約までに現場代理人及び主任技術者等の経歴書も同時に提出すること。
- オ 下請負関係書類 下請負を発注の都度、下記書類の写しを提出すること。
・ 施工体制台帳
・ 施工体系図
・ 再下請負通知書(再下請負の発注がある場合)
- カ 直 営 工 事 届 下請負を発注しない又はその予定がない場合は、遅滞なく提出すること。

(3) 監督員通知関係

監督員を2人以上置くこととした場合において、権限を分担させるときは、各監督員の権限の内容を別に通知する。

(4) 支給材料、貸与品関係

- | | | |
|-----------|----|----|
| ア 支 給 材 料 | あり | なし |
| イ 貸 与 品 | あり | なし |

(5) 条件変更等の関係

工事の施工に当たり、設計図書と現場の状態とが一致しないこと等の事実を発見したときは、単に事実関係のみでなく、設計図書の訂正に必要な資料、図面等を添付した書面で通知すること。

(6) 設計変更等の関係

必要により工事内容を変更する場合は、原則としてその必要が生じた都度契約変更の手続きを行うが、軽微なものは監督員の指示により工事内容の変更を行い、これに伴う契約変更の手続は、工期の末に行う。

(7) 部分引渡し関係

- | | | |
|-----------|----|----|
| 部分引渡し指定部分 | あり | なし |
|-----------|----|----|

(8) 火災保険等の関係

- | | | |
|----------------|----|----|
| 火災保険その他保険の付保条件 | あり | なし |
|----------------|----|----|

8. 現場代理人の常駐義務について

請負代金額が500万円以上の工事について現場代理人は常駐とするが、横須賀市ホームページ>入札の広場>入札情報ポータルサイト>入札制度関連情報において、重複配置の特例がある場合は兼務することができる。

9. コリンスの登録について

請負者は、受注時又は変更時及びしゅん工時において請負代金額が500万円以上の工事について、工事実績情報サービス(CORINS)入力システムに基づき、監督員に登録内容の確認を受けた後に、(一財)日本建設情報総合センターに登録申請しなければならない。

また、(一財)日本建設情報総合センター発行の「登録内容確認書」が請負者に届いた際には、その写しを直ちに監督員に提出しなければならない。

登録申請の期限は、次のとおりとする。

- (1) 受注時登録データの提出期限は、契約締結後10日以内とする。
- (2) しゅん工時登録データの提出期限は、しゅん工後10日以内とする。
- (3) 施工中に受注時登録データの内容に変更があった場合は、変更があった日から10日以内に変更データを提出しなければならない。
- (4) 変更時としゅん工までの間が10日間に満たない場合は、監督員の承諾を得て変更時の提出を省略できるものとする。

10. 建設業退職金共済制度への加入について

- (1) 請負者は、建設業退職金共済制度(以下「建退共制度」という。)に加入するとともに、その対象となる労働者について証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に証紙を貼付すること。
- (2) 証紙購入状況等を把握するため、当初工事請負契約代金額が500万円以上の場合は、別に定める「建設業退職金共済関係提出書」(第1号様式(建退共))及び「建設業退職金共済証紙貼付実績報告書」(第3号様式(建退共))を工事しゅん工時に、「建設業退職金共済証紙購入状況報告書」(第2号様式(建退共))を工事請負契約締結後1箇月以内に監督員へ提出すること。
共済証紙を購入した場合は、「建設業退職金共済証紙購入状況報告書」(第2号様式(建退共))に掛金収納書(以下「収納書」という)を添付すること。
なお、当初工事請負契約金額が500万円未満の場合においても本市が証紙購入状況を把握する必要があると認めるときは、関係資料の提出を求める場合がある。
- (3) 正当な理由がなく建退共制度に加入せず、又は証紙の購入若しくは貼付が不十分な請負者は、工事成績評定において考慮される事となる。
- (4) 下請契約における請負者に対してこの制度の趣旨を説明し、掛金相当額を請負代金中に算入するか、又は共済証紙の現物交付をすることにより、建退共制度加入並びに証紙の購入及び貼付の促進に努めること。
- (5) 前号における請負者の規模が小さく、管理事務の処理面で万全でない場合は、元請負者に建退共制度加入手続及び建退共制度関係事務の処理を委託する方法もあるので、元請負者は積極的に受託するよう努めること。
- (6) 請負者は、工事現場に建退共制度適用事業主の工事現場であることを明示する標識を掲示すること。

11. 施工計画書の提出について

(1) 施工計画書の作成

請負者は、契約後速やかに監督員の指示に従って施工計画書を作成し提出すること。ただし、監督員が別に指示する場合を除いて、次のいずれかに該当する工事については、提出を要しない。

ア 当初請負代金額が500万円未満の工事、又は当初工期が60日未満の工事

イ 契約後、直ちに現場着手を要する等の緊急工事

ウ 工事内容に基づき、監督員が提出を要しないと判断した工事

(2) 施工計画書の記載事項等

施工計画書等記載事項は、横須賀市ホームページ>入札の広場>検査情報に記載(別表)のとおりとする。ただし、請負者は、施工計画書の提出を不要とした工事であっても、監督員が必要と指示する書面を速やかに提出すること。

(3) 計画工程表の作成

請負者は、計画工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督員と協議を行うこと。

(4) 実施工程との比較照査

請負者は、工事施工中において、問題が発生した場合又は計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに監督員へ報告すること。

12. ワンデーレスポンスの取り組みについて

(1) 本市では、請負者からの質問、協議に対して、基本的に「その日のうち」に回答するよう、ワンデーレスポンスに取り組んでいる。

なお、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを請負者と協議のうえ、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」にすることとする。

(2) 発注者が効果・課題等を把握するためアンケート等のフォローアップ調査を実施する場合、請負者は協力すること。

13. 中間及び抜打ち状況調査の実施について

中間状況調査又は抜打ち状況調査は、検査員が随時行う。この場合、請負者は調査に協力しなければならない。

14. 下請負者について

(1) 下請負者を使用する場合には、市内業者を優先的に選定するよう配慮すること。

(2) 下請契約を締結する際は、当該下請負者に対して法定福利費の内訳が明示された国の標準見積書等の提出を指導するとともに、提出された場合は尊重し、適切な法定福利費を含んだ契約を締結すること。

15. 一括下請けの禁止について

請負者は、本工事の全部若しくはその主たる部分又は他の部分から独立してその機能を発揮する工作物の工事を一括して第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。

16. 技術的事項について(別紙)

請負工事仕様書

工 事 名	久里浜公園水泳プール解体工事
工事場所	横須賀市久里浜6丁目642番6
工 期	141 日
工事概要	本工事は久里浜公園水泳プール解体工事 であり材料・手間共一式請負とする。
工事仕様	一般共通事項及び特記仕様書は別紙による。
工事内容	久里浜公園水泳プール解体工事 ・管理棟解体 ・機械室解体 ・プール・外構解体 ・発生材処分 ・電気設備撤去 ・機械設備撤去
注意事項	<ul style="list-style-type: none">・ 周辺道路及び指定場所以外は、駐車を含め使用を禁止する。・ 設計書の疑義は、本市の解釈による。・ 仕様書、別紙図面、内訳書に記載なき事項でも、工事上及び技術上当然必要ある資機材は補足し、遅滞なく工事を遂行し完了させること。・ 本工事起因による周辺道路及び周辺家屋の損害は、請負業者負担により速やかに復旧すること。・ 積算基準については建築計画課ホームページ https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4827/sekisankijyun/sekisankijyun257i.htmlをご確認ください。

建築・建築設備工事 一般共通事項

令和5年4月1日

1 一般事項

(1) 共通仕様書の適用範囲

本工事は、本市契約規則等に基づき、特記によるほか、新增改築工事においては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）、（電気設備工事編）及び（機械設備工事編）－令和4年版－」、補修改修工事においては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）、（電気設備工事編）及び（機械設備工事編）－令和4年版－」に準拠する。

ただし、補修改修工事において、軽微で少量の施工個所で、安全上支障のない場合は、監督員と協議のうえ、上記仕様書に記載されている各工程の一部及び試験などを省略することができる。

(2) 軽微な変更

現場の納まり、取合いなどの関係で材料の寸法、取付け位置又は取付け工法、あるいは数量等の増減で軽微な変更は市監督員（以下「監督員」という。）との協議による。

(3) 本市指定様式

「横須賀市ホームページ」>「申請書ダウンロード」>「建築計画課の書式」にて掲載。（使用時に最新版を確認）

(4) 官公署その他への手続き

工事の施工に必要な官公署その他への手続きは、速やかに行う。これに伴う費用は本工事の請負者（以下「請負者」という。）の負担とする。

(5) 別記について

本工事にて特に必要な追加事項については別記として以下を本仕様書に添付する。

- 別記1 支給材料
- 別記2 貸与品
- 別記3 部分引渡し
- 別記4 部分使用
- 別記5 保険
- 別記6 返納すべき発生材
- 別記7 完成写真
- 別記8 メーカーリスト

2 工事現場管理

(1) 災害及び公害の防止

ア 施工中の安全に関しては、建築工事安全施工技術指針を参考に常に工事の安全に留意し、現場管理を行い、災害及び事故の防止に努める。

イ 工事用車輛の搬出入が頻繁な日時は専任の交通整理員を要所に配置し、付近住民及び施設利用者等の安全な通行に努める。

ウ 工事用車輛の搬出入に起因する現場付近の道路等の汚れは随時清掃し、本工事車両に起因する損傷箇所は速やかに復旧する。

エ 作業に伴う騒音、振動、煤煙、ほこり等、又仮設物による電波、日照障害についてはあらかじめ配慮し、公害の防止に努める。

オ 騒音、振動については、「建設工事公衆災害防止対策要綱」に準拠するとともに、関係法令を遵守すること。

(2) あと片付け

工事完成に際しては、工事用用地及び仮囲いの外周（1.0m）を原形に復旧する。

3 記 録

(1) 材料の品質検査

材料の品質検査は使用前に監督員の検査を受ける。又工事材料内訳書は本市指定様式により書面およびエクセルデータで提出する。

(2) 工事報告書

工事報告書（工事出来高表、工事進捗写真、工事月報、工事日報）は監督員の指示がある場合に、本市指定様式により毎月提出する。

(3) 工事記録写真

工事記録写真は、監督員の指示により下記を表紙付き冊子（A4版）で提出する。
ア 工事着手前の状況。
イ 施工中の工事進捗過程（完成まで）。
ウ 施工状況で特に報告の必要のある場合。

(4) 完成図、その他

電気設備工事及び機械設備工事については、本工事完成引渡しと共に完成図書を電子媒体にて提出する。また、当該施設に完成図書を1部作成し引き渡す。

電子媒体はCD-RまたはDVD-Rとする。内容はしゅん工図、製品完成図、書類等とする。

データの種類について、しゅん工図についてはCADデータとCAD図をイメージデータ化したものとする。製品完成図、書類についてはイメージデータ化したものとするがExcel、Wordで作成されたものについてはそれぞれのファイル形式とする。

拡張子について、CADデータはDXFまたはDWG、イメージデータはPDFとする。

提出する電子媒体について、納品前にウィルスチェックを実施し、媒体のラベルにウィルスチェックに関する情報を記載する（ウィルスソフト名、ウィルス定義、チェック日）。

4 環境への取組み

(1) 環境マネジメントシステム

請負者は、横須賀市環境マネジメントシステム（YES）の環境方針を十分理解して、工事現場から生じる騒音、振動等の建設公害、建設廃棄物の排出による処分場への負担、熱帯材型枠の使用による地球温暖化などの環境負荷を低減するために次に掲げる事項に留意して、地球環境の保全に資するよう努めなければならない。

(2) 無石綿（アスベスト）化への対応

使用建材については、アスベストが含有するものを使用しないこと。また、下請負者を使用する場合は、同様の内容を周知し、徹底を図ること。

(3) 環境問題意識の啓発

請負者は、現場の職員、従業員及びこの工事に関連するすべての業者に対して工事管理会議などの機会を通じて、環境改善のための教育講習会を開催し、各人の環境問題意識の高揚に努めなければならない。

なお、監督員が指示した工事については、実施した教育講習会の内容を工事日報、工事監理日誌などに記録して監督員に提出する。

(4) 廃棄物の適正処理等

請負者は、建設工事に伴い発生する廃棄物について、別添「建設廃棄物の取扱及び建設副産物実態調査に係る特記仕様書」に基づき発生抑制、再利用・再資源化、適正処理に努める。

(5) 熱帯材型枠使用の削減	<p>本工事で使用するコンクリート型枠用合板は、従前から使用している熱帯材を原料とする合板（熱帯材100%のもの）は使用しないものとする。</p> <p>これに替わるコンクリート用型枠は、針葉樹林型枠、複合型枠（以下「複合合板型枠」という。）など熱帯材100%合板型枠以外のものから工事の作業条件等を考慮して、請負者の責任と費用負担により選択するものとする。又複合合板型枠を使用する場合は極力塗装仕上げをされたものを使用し、その型枠の転用（再使用）の増加を図る。</p>
(6) グリーン購入法	<p>請負者は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」に基づき、環境負荷の低減に資する環境物品の調達に努める。</p> <p>なお、監督員が指示した工事については、「グリーン購入実績報告書」（本市指定様式）を監督員に提出する。</p>
(7) フロン排出抑制法	<p>フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）に基づき、オゾン層の保護及び地球温暖化の防止に努め、工事により発生したフロン類廃棄物は適正に処理し、フロン類回収登録業者より処理受領証明書を受け監督員に提出する。</p>
5 その他	
(1) 工事表示板等の設置	<p>公共建築工事（又は公共建築改修工事）標準仕様書によるほか、工事請負金額1,000万円（消費税を含む）以上の工事については工事表示板を、新築工事で100㎡以上のものについては工事看板を設置する。（表示板等仕様については「申請書ダウンロード」に掲載。）</p>
(2) 公共サイン等の表示・設置	<p>本工事の一部に公共サイン等の表示・設置が含まれている場合は、横須賀市屋外広告物条例第26条により屋外広告業の登録を受けた者又は、同条例第28条の6第3項により届出を行った者が行うこと。</p>

メーカーリスト

R5.4.1

熱 源 機 器	ダイキン工業(株)／日立プラントサービス(株)／荏原冷熱システム(株)／東芝キャリア(株)／川重冷熱工業(株)／三菱重工冷熱(株)／パナソニック産機システムズ(株)／矢崎エナジーシステム(株)
ボ イ ラ ー	(株)I H I 汎用ボイラ／(株)前田鉄工所／(株)日本サーモエナジー／三浦工業(株)／(株)タクマ
製 缶 類	森松工業(株)／(株)バルテクノ／三菱ケミカルインフラテック(株)／積水アクアシステム(株)／ホーコス(株)／(株)エヌ・ワイ・ケイ／(株)プロテリアル
冷 却 塔	空研工業(株)／荏原冷熱システム(株)／三菱ケミカルインフラテック(株)／日立グローバルライフソリューションズ(株)／日本スピンドル製造(株)／東芝キャリア(株)
ヒ ー ト ポ ン プ 式 空 気 調 和 機	ダイキン工業(株)／三菱電機(株)／東芝キャリア(株)／パナソニック(株)／日立グローバルライフソリューションズ(株)
ガ ス エ ン ジ ン ヒ ー ト ポ ン プ 式 空 気 調 和 機	ダイキン工業(株)／ヤンマーエネルギーシステム(株)／アイシン精機(株)／パナソニック産機システム(株)／日立グローバルライフソリューションズ(株)
空 気 調 和 機	木村工機(株)／クボタ空調(株)／ダイキン工業(株)／暖冷工業(株)／新晃工業(株)／昭和鉄工(株)／三菱重工冷熱(株)
フ ィ ル タ ー	(株)忍足研究所／東洋空気調和(株)／ニッタ(株)／日本バイリーン(株)／日本無機(株)／(株)日立産機システム／日本エアフィルター(株)
加 湿 装 置	ウェットマスター(株)／エアマテック(株)／ムンターズ(株)／ピーエス工業(株)／ユーキャン(株)／(株)立石
フ ァ ン コ イ ル ユ ニ ッ ト	木村工機(株)／暖冷工業(株)／新晃工業(株)／三菱電機(株)／ダイキン工業(株)／東芝キャリア(株)／昭和鉄工(株)
全 熱 交 換 機	木村工機(株)／東芝キャリア(株)／三菱電機(株)／パナソニック(株)／日立グローバルライフソリューションズ(株)／ダイキン工業(株)／
送 風 機	荏原製作所(株)／テラル(株)／(株)日立産機システム／パナソニック(株)／三菱電機(株)／ミツヤ送風機(株)
換 気 扇	パナソニック(株)／三菱電機(株)／東芝キャリア(株)／日立グローバルライフソリューションズ(株)
制 気 口	空調技研工業(株)／空研工業(株)／協同工業(株)／協立エアテック(株)／三菱電機(株)
ダ ン パ ー 類	協同工業(株)／空研工業(株)／クリフ(株)／空調技研工業(株)／(株)三功工業所／協立エアテック(株)／(株)ダイリツ／(株)ユニックス
風 量 調 整 装 置	クボタ空調(株)／東プレ(株)／新晃工業(株)／エアコンスター(株)／協立エアテック(株)／クリフ(株)／空調技研工業(株)
自 動 制 御 装 置	アズビル(株)／ジョンソンコントロールズ(株)
ポ ン プ 類	(株)荏原製作所／(株)日立産機システム／テラル(株)／(株)川本製作所／新明和工業(株)／(株)鶴見製作所
水 槽 類	積水アクアシステム(株)／三菱ケミカルインフラテック(株)／森松工業(株)／(株)バルテクノ
衛 生 陶 器 ・ 器 具	TOTO(株)／(株)LIXIL
排 水 金 物 ・ 桝 蓋	伊藤鉄工(株)／ダイドレ(株)／カネソウ(株)／(株)小島製作所／第一機材(株)／(株)中部コーポレーション／福西鋳物(株)／西部機材(株)
プ ラ ス チ ッ ク 桝	前澤化成工業(株)／アロン化成(株)／(株)クボタケミックス／積水化学工業(株)
消 火 栓 箱 ・ 器 具	(株)立売堀製作所／(株)横井製作所
電 気 給 湯 器	TOTO(株)／(株)日本イトミック／細山熱器(株)／三菱電機(株)／(株)LIXIL
ガ ス 給 湯 器	(株)ノーリツ／(株)パロマ／リンナイ(株)／(株)コロナ／パーパス(株)
濾 過 装 置	ミウラ化学装置(株)／(株)アクアプロダクト／(株)ショウエイ／(株)アスカ／(株)アルバ

建設廃棄物の取扱い及び建設副産物実態調査に係る特記仕様書

本特記仕様書は、建設工事から発生する廃棄物についての取扱い及び建設副産物実態調査に関する事項を定めるものであり、横須賀市が発注する工事に適用する。

I. 総 則

1 用語の定義

本特記仕様書において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 建設工事 土木建築に関する工事をいう。
- (2) 建設副産物 建設工事に伴い副次的に得られた物品をいう。
- (3) 建設廃棄物 建設副産物のうち廃棄物処理法上の廃棄物に該当するものをいう。
- (4) 建設資材 土木建築に関する工事に使用する資材をいう。
- (5) 建設資材廃棄物 建設資材が廃棄物処理法上の廃棄物となったものをいう。
- (6) 建築物等 建築物その他の工作物をいう。
- (7) 解体工事 建築物にあつては、当該建築物のうち構造耐力上主要な部分の全部又は一部を取り壊す工事をいい、建築物以外の工作物にあつては、当該工作物の全部又は一部を取り壊す工事をいう。
- (8) 新築工事等 建築物等の新築その他の解体工事以外の建設工事をいう。
- (9) 分別解体等
 - ア 解体工事の場合は、建築物等に用いられた建設資材に係る建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を計画的に施工する行為をいう。
 - イ 新築工事等の場合は、当該工事に伴い副次的に生じる建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を施工する行為をいう。
- (10) 再資源化 分別解体等に伴って生じた建設資材廃棄物の運搬又は処分（再生することを含む）に該当するもので次に掲げる行為をいう。
 - ア 資材又は原材料として利用することができる状態にすること。
 - イ 燃焼の用に供することができるもの又はその可能性のあるものについて、熱を得ることに利用することができる状態にすること。
- (11) 対象建設工事 建設リサイクル法に規定する対象建設工事をいう。
- (12) 建設発生木材等 建設工事（工作物の新築、改築又は除去に係るものに限る。）に伴って副次的に得られた解体木くず、伐木材、伐根材その他の木材が廃棄物になったものをいう。
- (13) 建設リサイクル資材 「県土整備部公共工事グリーン調達基準」の別表第7に定める認定対象品目の資材をいう。
- (14) 再生資源利用促進計画（実施）書 資源有効利用促進法に規定する再生資源利用促進計画（実施状況）をいう。
- (15) 再生資源利用計画（実施）書 資源有効利用促進法に規定する再生資源利用計画（実施状況）をいう。

II. 建設副産物適正処理・再資源化に関する事項

工事の施工等にあたっては、まず建設副産物の発生抑制に努め、発生したものについては再使用、再生利用を徹底し、そして熱回収が可能なものは熱回収を行うことを基本として取り組むこととし、このための施工方法及び建設資材の選択等については積極的に提案すること。

1 施工前に取り組む事項

建設副産物の発生抑制、分別解体等、再資源化等の中心的役割を担う者として、建設業法、建設リサイクル法その他の法令を遵守するとともに、発注者との連絡調整、管理及び施工体制の整備等を行うこと。

《管理及び施工体制の整備》

- (1) 工事現場における建設副産物対策の責任者を明確にし、廃棄物処理計画の作成に努めること。
- (2) 請負代金の額が100万円以上(税込)の場合には、次項Ⅲ. に基づき建設副産物情報交換システムに工事情報を登録すること。
- (3) 建設副産物情報交換システムから出力する等をして、「再生資源利用促進計画書」及び「再生資源利用計画書」を作成し、施工計画書に添付するとともに、監督員に提出して説明すること。
- (4) 再生資源利用促進計画書及び再生資源利用計画書は、公衆の見えやすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）すること。
- (5) 対象建設工事においては、契約前に発注者に提出した「説明書」を施工計画書に添付すること。
- (6) 再生資源利用促進計画書、再生資源利用計画書及び廃棄物処理計画等の内容については、現場担当者の教育、協力業者に対する周知徹底と明確な指導を行うこと。

《下請契約》

- (7) 工事の一部を下請発注し、生じた建設廃棄物を処理委託する場合は個別に直接処理委託の契約をすること。
- (8) 分別解体等及び建設資材廃棄物の再資源化等に要する費用の適正な負担に努めること。
- (9) 対象建設工事にあつては、発注者に提出した「説明書」の内容を下請負人に告げるとともに、分別解体等の計画等に沿った施工、特定建設資材廃棄物の再資源化について指導を徹底すること。
- (10) 対象建設工事の下請契約には、建設業法による事項の他、分別解体等の方法、解体工事に要する費用、再資源化等をするための施設の名称及び所在地並びに再資源化等に要する費用を記載すること。
- (11) 解体工事を下請けさせる場合は、建設業法に基づく土木工事業、建築工事業又は解体工事業に係る許可業者または、建設リサイクル法に基づく解体工事業の登録業者に発注すること。
ただし、解体工事業登録業者は請け負うことができる工事の規模に制限があるので注意すること。

《事前調査等》

- (12) 対象建設工事においては、建設工事の着手に先立ち対象建築物等及びその周辺の状況、作業場所の状況、搬出経路の状況、残存物品の有無、付着物の有無等の調査を行うこと。
- (13) 調査結果に基づき、作業場所及び搬出経路の確保、残存物品の搬出や付着物の除去など適正な工事を実施するための措置を講ずること。

《再生品の利用》

- (14) 建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材については、利用用途に応じた品質等を考慮した上で、次の事例を参考とし、可能な限り利用すること。
- ア 道路等の舗装の路盤材、建築物の砂利・砂・割り石等の材料は、原則として、「コンクリート塊等の処理及び建設リサイクル資材に関する事務取扱要領」に基づく県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場から再生砕石等を調達すること。ただし、再生砂（RC-10）の利用に当たっては、製造者側から試験結果報告書を入手し六価クロムに係る環境基準の適合確認をした上で、監督員に報告書を提出し、確認を受けることとする。
なお、請け負った工事において再生砕石等を使用する場合は、上記要領に基づき、購入先その他の建設リサイクル資材の利用に関する内容（再生資源利用計画書）を記載した施工計画書に当該指定工場の材料試験成績書を添えて、監督員に提出すること。
また、工事が完了したときは、上記要領に基づき、当該工事に使用した再生砕石等の使用数量を建設リサイクル資材利用報告書に再生骨材購入指定工場の納入証明を受け、監督員に提出すること。
 - イ 建築工事の内装材等及び道路舗装材には、「工事における環境配慮型公共工事の推進に関する特記仕様書」を参考に、パーティクルボードや再生加熱アスファルト混合物等の利用に努めること。
 - ウ その他、コンクリート型枠材としてのパーティクルボード（ストランドボード）等エンジニアードウッドの利用、法面の緑化材、雑草防止材等としての再生木質マルチング材等の利用を積極的に提案すること。

2 施工に関する事項

分別解体等及び建設資材廃棄物の処理等の過程においては、廃棄物処理法、大気汚染防止法、労働安全衛生法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例等関係法令の遵守を徹底するとともに、アスベスト、CCA処理木材、フロン類、非飛散性アスベスト、PCB等の取扱いには十分注意し、有害物質等の発生抑制及び周辺環境への影響の防止を図ること。

《発生抑制》

- (1) 端材の発生が抑制される施工方法の採用及び建設資材の選択等について、次の事例を参考にして、積極的な提案を行うこと。
- ア 解体時において再使用が容易に行える施工方法の採用
 - イ 耐久性の高い建築物等の建築等
 - ウ 使用済コンクリート型枠の再使用
 - エ コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊の現場内破砕による路盤材等への再生利用
 - オ 建設汚泥の現場内での脱水、固化等による盛土材等への再生利用

《分別解体等》

- (2) 建設業者にあつては主任技術者（監理技術者）、解体工事業登録業者にあつては技術管理者を設置するとともに、工事の現場に標識を掲げること。
- (3) 建設副産物を、次の区分に留意して、種類ごとに分別しつつ工事を施工するよう努めること。
- ア 建設廃棄物と建設発生土
 - イ 一般廃棄物（飲料の空缶や弁当がら、刈草等）と産業廃棄物（伐木材・伐根材等）
 - ウ 特別管理産業廃棄物（飛散性アスベスト廃棄物等）と再資源化できる産業廃棄物
 - エ 安定型産業廃棄物（がれき類、廃プラスチック類、ガラスくず及び陶磁器くず、ゴムくず等）と管理型産業廃棄物（燃え殻、木くず、廃石膏ボード等）
- (4) 対象建設工事においては、分別解体等の計画等に定める、工事工程の順序、当該工程ごとの作業内容及び分別解体等の方法により、現場において、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材等をその種類ごとに確実に分別しつつ施工すること。

《再資源化等》

- (5) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材等、建設発生土は、再生資源利用促進計画書に基づき、再資源化施設等に搬入するとともに、再生資源の活用に努めること。（再生資源利用促進計画書については、Ⅲ.を参照）
- (6) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は、原則として県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場へ搬入すること。
その際には、「コンクリート塊等の処理及び建設リサイクル資材に関する事務取扱要領」に基づき、搬入先その他のコンクリート塊等の再資源化に関する内容（再生資源利用促進計画書）を記載した施工計画書を監督員に提出するなど、所定の手続きを取ることに。
- (7) 建設発生木材等は、原則として県土整備局の指定事業者の指定施設へ搬入すること。
その際には、「建設発生木材等の再資源化に関する事務取扱要領」に基づき、搬入その他の建設発生木材等の再資源化に関する内容（再生資源利用促進計画書）を記載した施工計画書を監督員に提出するなど、所定の手続きを取ることに。
- (8) その他の建設廃棄物（特定建設資材廃棄物以外の廃棄物、対象建設工事でない工事による建設廃棄物）についても、可能な限り分別解体等を実施し、再資源化等に努めること。

《適正処理》

- (9) 廃棄物を処理する場合には、元請業者は、排出事業者として自らの責任において、廃棄物処理法等関係法令に基づき、可能な限り現場で減量化した後に適正に処理すること。
- (10) 廃棄物の処理を委託する場合には次の事項に留意すること。
 - ア 運搬と処分についてそれぞれの許可業者と各々委託契約すること。また、吹き付けアスベスト除去工事等に伴い発生する飛散性アスベスト廃棄物等の特別管理産業廃棄物はその専門業者に委託すること。
 - イ 適正な委託契約を行わない状況で、受託者が不法投棄等を行った時には、委託基準違反として委託者にも責任が及ぶことになるため、適正な委託費用をもって適切な委託契約を行い、併せて契約内容を確実に履行するよう関係者を指導監督すること。
 - ウ 産業廃棄物の処理を委託する場合には、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付し、最終処分（再生を含む。）が完了したことを確認すること。

3 施工の完了後に行う事項

- (1) 再生資源利用促進計画書及び再生資源利用計画書を作成した工事にあつては、産業廃棄物管理票（マニフェスト）と照合した上で実施状況を記録し、建設副産物情報交換システムから出力する等をして、「再生資源利用促進実施書」及び「再生資源利用実施書」を作成し、監督員に提出するとともに、その内容を報告すること。
- (2) 再生資源利用促進計画（実施）書及び再生資源利用計画（実施）書は、5年間保存すること。
- (3) 対象建設工事においては、産業廃棄物管理票（マニフェスト）と照合して、特定建設資材廃棄物の再資源化が完了したことを確認したときは、速やかに「再資源化等報告書」を発注者に提出するとともに、再資源化等の実施状況に関する記録を作成し、保存すること。
- (4) 次項Ⅲ.に基づき建設副産物情報交換システムに工事情報を登録した場合は、上記(3)の建設リサイクル法に基づく再生資源化等報告書は監督員に提出されたものとみなす。
- (5) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊については、「コンクリート塊等の処理及び建設リサイクル資材に関する事務取扱要領」に基づき、当該工事で発生したコンクリート塊等の指定工場への搬入を完了したときは、速やかにコンクリート塊等搬入完了報告書に指定工場の証明を受けて監督員に報告すること。
- (6) 建設発生木材等については、「建設発生木材等の再資源化に関する事務取扱要領」に基づき、当該工事で発生した建設発生木材等の指定施設への搬入を完了したときは、速やかに建設発生木材等搬入完了報告書に指定施設の証明を受けて監督員に報告すること。

上記(1)から(6)の書類は、完成検査時の確認事項とするので、契約工期内に提出等すること。

(参考)

- 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号）（平成26年6月4日改正）（建設リサイクル法）
- 特定建設資材に係る分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の促進等に関する基本方針（平成13年1月17日 農林水産省・経済産業省・国土交通省・環境省告示第1号）
- 神奈川県における特定建設資材に係る分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の促進等の実施に関する指針（平成14年5月28日 神奈川県告示第366号）
- 資源の有効な利用の促進に関する法律（平成3年法律第48号）（平成26年6月13日改正）（ラージリサイクル法）
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）（令和元年6月14日改正）（廃棄物処理法）
- 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）（平成27年9月11日改正）（グリーン購入法）
- 建設副産物適正処理推進要綱（平成14年5月30日改正）

Ⅲ. 建設副産物実態調査に関する事項

現場から発生する建設副産物についての発生量および再生資源利用量の実態把握について定める。

- 元請業者は、建設資材利用量の大小や有無及び建設副産物発生量・搬出量の大小や有無にかかわらず、当該年度に終了した最終請負額が100万円以上（税込）の工事（小規模工事等は除く）は、次項の建設副産物実態調査作業手順にもとづき調査データを提出するものとする。
ただし、複数年度にまたがる債務工事等の工事額は、当該年度の年割り額を記入し、工事内容は当該年度分の資材利用量、建設副産物発生量・搬出量のみを記入する。

本調査の対象品目は、表1の通りである。

表1 調査対象品目

対象	調査対象品目	備考
搬入する 建設資材	コンクリート	
	コンクリート及び鉄から成る建設資材	
	木材	
	アスファルト混合物	
	土砂	
	砕石	
	塩化ビニル管・継手	
	石膏ボード	
	その他の建設資材	
搬出する 建設副産物	コンクリート塊	
	建設発生木材A（柱、ボードなどの木製資材が廃棄物となったもの）	建設発生木材等のうち、解体木くず、新築端材木くず等が該当する。
	アスファルト・コンクリート塊	
	その他がれき類	
	建設発生木材B（立木、除根材などが廃棄物となったもの）	建設発生木材等のうち、建設工事（工作物の新築、改築又は除去に係るものに限る。）に伴って副次的に得られる伐木材、伐根材が該当する。
	建設汚泥	
	混合状態の廃棄物（建設混合廃棄物）	現場へ搬出する状態で判断し、発生と搬出の間に分別された場合には、分別後の品目が発生したものとみなす。
	金属くず	
	廃塩化ビニル管・継手	
	廃プラスチック（廃塩化ビニル管・継手を除く）	
	廃石膏ボード	
	紙くず	
	アスベスト（飛散性）	
	その他の分別された廃棄物	
第一種～第四種建設発生土及び浚渫土（建設汚泥を除く）		

2 建設副産物実態調査の作業手順は、次のとおりとし、元請業者が行うものとする。

- (1) 一般財団法人日本建設情報総合センターのホームページ
<http://www.recycle.jacic.or.jp/> から建設副産物情報交換システムにログインする。
 システムの操作方法については、「各種マニュアル」ページ内の「建設副産物情報交換システム」の操作マニュアル「排出事業者用」を参照する。
- (2) 当初契約時点でのデータを入力する。
 (「再生資源利用(促進)計画書—建設リサイクルガイドライン様式—」の作成)
- (3) 工事検索画面から当該工事を検索し、「登録証明書の印刷」により「建設副産物情報交換システム工事登録証明書(計画)」を印刷し、監督員に提出する。
- (4) 工事完成時に実施書(最終データに修正)に書き換える。
- (5) 各種書類印刷により、「チェックリスト」を出力し、必須エラーが発生していないことを確認する。
- (6) 工事検索画面から当該工事を検索し、「登録証明書の印刷」により「建設副産物情報交換システム工事登録証明書(実施)」及び上記(5)で確認した「チェックリスト」を印刷し、監督員に提出する。

3 データ入力上の留意点

- (1) 建設発生土の入力値について

建設発生土については、埋戻しなどのように、現場内利用がある場合には、建設副産物発生・搬出(一種発生土～浚渫土)には、「地山 m^3 」で入力し、建設資材利用(土砂)には、「締め m^3 」(表2、土量の変化率Cを考慮)で入力する。

表2 土量の変化率C

レキ質土		砂質土及び砂		粘性土	
レキ	レキ質土	砂	砂質(普通土)	粘性土	高含水比粘性土
0.95	0.90	0.95	0.90	0.90	0.90

岩塊 玉石	軟岩Ⅰ	軟岩Ⅱ	中硬岩	硬岩Ⅰ
1.00	1.15	1.20	1.25	1.40

(例)

掘削 100 m^3 (地山 m^3)

埋戻し 20 m^3 (締め m^3) … 「土砂 建設資材 利用量(A)」欄に入力する。

22 m^3 (地山 m^3) … 「一種発生土～浚渫土 ②利用量」欄に入力する。

20 m^3 / 変化率C (仮に0.9とする) = 22 m^3

処分 78 m^3 (地山 m^3) … 「一種発生土～浚渫土 ④現場外搬出量」欄に入力する。

$$100\text{ m}^3 - 22\text{ m}^3 = 78\text{ m}^3$$

(2) 建設資材利用について

ア 建設リサイクル資材を利用する場合は、建設資材利用の欄に以下の方法により入力する。

- ・表3にまとめる調査対象品目の分類ごとに建設リサイクル資材をそれぞれ入力する。建設リサイクル資材の品目名については、神奈川県県土整備局建設リサイクル資材認定資材一覧表（以下、認定一覧表という）を参照する。

表3 調査対象品目と建設リサイクル資材品目名

調査対象品目(建設資材の「分類」)	建設リサイクル資材の品目名
土 砂	再生改良土
アスファルト・コンクリート	再生加熱アスファルト混合物
砕 石	再生骨材等
コンクリート	再生コンクリート二次製品(無筋) ※
	再生舗装用ブロック(平板、インターロッキングブロック、レンガブロック等)
	再生骨材コンクリート
	再生生コンクリート
コンクリート及び鉄から成る建設資材	再生コンクリート二次製品(有筋) ※
木 材	再生木質ボード
	再生集成材・合板
塩化ビニル管 ・継手	排水・通気用再生硬質塩化ビニル管

※再生コンクリート二次製品に該当する建設リサイクル資材が無筋コンクリートの場合、調査対象品目のうち「コンクリート」に、再生コンクリート二次製品に該当する建設リサイクル資材が有筋コンクリートの場合、調査対象品目のうち「コンクリート及び鉄から成る建設資材」に入力する。

- ・「規格」は認定一覧表の「寸法・規格等」を入力する。
- ・「再生資材の供給元施設、工事等の名称」については認定一覧表の「製造工場」を入力し、「再生資材の供給元場所住所」については、認定一覧表の製造工場の住所を入力する。
- ・「再生資材利用量」は、利用量と同じ値を入力する。

イ 新材を利用する場合は、調査対象品目の中で箇所を変えて入力する。また、その際の「再生資材利用量」には「0」を入力する。

ウ RC-10（再生砂）を利用する場合は、「土砂」の「再生コンクリート砂」欄に入力する。

(3) 建設副産物発生・搬出（コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材A・B、建設汚泥、建設発生土（第一種～第四種建設発生土及び浚渫土））について

ア コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊を県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場に搬出する場合は、「搬出先の種類のコード」を「5 中間処理施設(合材プラント以外の再資源化施設)」と選択する。

イ 建設発生木材等のうち解体木くず、新築端材木くずを県土整備局の建設発生木材等再資源化指定事業者の指定施設に搬出する場合は、「建設発生木材A(柱、ボードなどの木製資材が廃棄物になったもの)」欄に入力することとし、「搬出先の種類のコード」を「5 中間処理施設(合材プラント以外の再資源化施設)」と選択する。

ウ 建設発生木材等のうち伐木材、除根材を県土整備局の建設発生木材等再資源化指定事業者の指定施設に搬出する場合は、「建設発生木材B(立木、除根材などが廃棄物となったもの)」欄に入力することとし、「搬出先の種類のコード」を「5 中間処理施設(合材プラント以外の再資源化施設)」と選択する。

エ 建設汚泥を一部であっても改良土等に処理している施設などに搬出する場合は、「搬出先の種類のコード」を「5 中間処理施設(合材プラント以外の再資源化施設)」と選択する。

オ 再利用が決まっている建設発生土を仮置き場に搬出する際は、「搬出先の種類のコード」を「5 工事予定地・仮置場・ストックヤード(再利用の目的がある決定)」と選択する。

公共建設発生土処分にかかる「指定処分A(指定受入地搬入)」特記仕様書

本工事から発生する発生土については、下記により処理すること。

1 受入場所

- ・ 処分場等の名所 横須賀市久里浜港受入地 (UCR)
- ・ 場所 横須賀市久里浜8丁目2567番62 久里浜港内

2 受入条件

- ・ 搬入不可日 原則として、土曜日・日曜日・祝日・旧盆・年末年始及び雨天日とする。
- ・ 搬入時間 原則8:00~17:00
- ・ 搬入車両 2t、3t、4t、10t
- ・ 土質条件 第1種~第3種建設発生土(改良土及び第4種建設発生土・泥土は受入不可。)最大粒径100mm以下の土砂であること。
- ・ 搬入経路 一部通行禁止の区間あり
- ・ 受入費 ほぐし土量 1.0m³当たり 3,810円(税別)

1台当たり換算

車種	積載土量(ほぐし)	備考
2t車	1.33m ³	土砂の単位体積重量は 1.8t/m ³ として計算
3t車	1.99m ³	
4t車	2.66m ³	
10t車	6.66m ³	

※ 整理券発行枚数は、原則として搬入対象ほぐし土量を使用車種別に積載土量(ほぐし)で除し、少数以下を切り上げた整数枚とする。ただし、現場から発生する土砂の単位体積重量が、1.8t/m³と著しく異なることにより、これによりがたい場合は監督員と協議することとする。

3 受注者は、自ら選定した仮置場に建設発生土を搬入する場合は、事前に監督員と協議すること。

4 受注者は、別添「建設廃棄物の取扱い及び建設副産物実態調査に係る特記仕様書」に基づき再生資源利用促進計画書及び、再生資源利用促進実施書を提出すること。(地山土量1,000m³以上の場合)

工事記録写真電子データ提出に関する特記仕様書

工事記録写真について、「建築・建築設備工事 一般共通事項 3.記録 3)工事記録写真」によるほか、下記により電子データをあわせて提出する。

1 形態

工事記録写真はフルカラーとし、構成はA4縦3段とする。

2 拡張子

拡張子はPDFまたは専用ソフトによるものとし、専用ソフトにて提出する場合は、ビューワーも同封すること。

3 解像度

有効画素数は100万画素以上とし、黒板の文字及び設営対象が確認できることとする。

4 記録媒体

提出はCD-RまたはDVD-Rとし、提出する際は下記のとおり適切なウイルス対策ソフトを使用し、ウイルスチェックを実施すること。

- ・ウイルス対策ソフトは広く一般に普及しており、信頼性の高いものを使用すること。
- ・最新のウイルスも検出できるように常に最新のデータに更新したものを使用すること。

また、提出する記録媒体のラベル部には、下記の情報を記入すること。

- ・工事件名
- ・工期
- ・請負者名
- ・ウイルスチェックに関する情報(セキュリティソフト名、バージョン、チェック日)

5 その他

電子データの提出が困難な場合は事前に監督員の承諾を得ること。

施工条件明示事項

1. 当該工事の施工条件明示事項は、下記表□内の黒塗り部分が対象となる。
ただし、明示されているものは特に必要なものであり、全てに対して明示されているものではない。
2. なお、請負者は下記明示事項やそれ以外に該当すると思われるもので、明示されていない場合には、その都度監督員と協議するものとする。

明示項目	明 示 事 項
<input checked="" type="checkbox"/> 工程関係	<input type="checkbox"/> 他の工事の開始又は完了の時期による影響 <input checked="" type="checkbox"/> 施工時期、施工時間及び施工方法の制限(準備工期の設定等) <input type="checkbox"/> 関係機関等との協議の未成立 <input type="checkbox"/> 関係機関等との協議条件による影響 <input type="checkbox"/> 地下埋設物、埋蔵文化財等の事前調査及び移設期間 <input type="checkbox"/> 設計上、見込んでいる休日日数等以外の作業不能日数
<input type="checkbox"/> 用地関係	<input type="checkbox"/> 工事用地等の未処理部分 <input type="checkbox"/> 工事用仮設道路・資機材置き場用の民有地等の借地 <input type="checkbox"/> 発注者が借り上げた土地の使用 <input type="checkbox"/> 工事用地等の使用終了後における復旧内容
<input checked="" type="checkbox"/> 周辺環境関係 (公害、排水等)	<input checked="" type="checkbox"/> 工事に伴う公害防止(騒音、振動、粉塵、排出ガス等)対策 <input type="checkbox"/> 水替え・流入防止施設 <input type="checkbox"/> 濁水、湧水等の処理対策 <input type="checkbox"/> 事業損失防止関係
<input checked="" type="checkbox"/> 安全対策関係	<input type="checkbox"/> 交通安全施設等の指定 <input type="checkbox"/> 近接工事での施工方法、作業時間等の制限 <input type="checkbox"/> 落石、土砂崩落等に対する防護施設 <input checked="" type="checkbox"/> 交通誘導警備員、警戒船等の保安設備、保安要員の配置 <input type="checkbox"/> 有毒ガス及び酸素欠乏等の換気設備等対策
<input checked="" type="checkbox"/> 工事用道路関係	<input type="checkbox"/> 工事用資機材等の搬入経路、使用期間等の制限 <input checked="" type="checkbox"/> 搬入路の使用及び使用後の処置 <input type="checkbox"/> 仮設道路の設置 <input type="checkbox"/> 一般道路の占用
<input type="checkbox"/> 仮設備関係	<input type="checkbox"/> 仮設物(仮土留、足場等)の他の工事への転用若しくは兼用 <input type="checkbox"/> 仮設備の構造及び施工方法の指定 <input type="checkbox"/> 仮設備の設計条件の指定
<input type="checkbox"/> 建設副産物関係	<input type="checkbox"/> 残土の受け入れ及び仮置き場所までの距離、時間等の処分条件 <input type="checkbox"/> 建設副産物の現場内での再利用及び減量化 <input type="checkbox"/> 建設副産物及び建設廃棄物の処理
<input type="checkbox"/> 薬液注入関係	<input type="checkbox"/> 薬液注入工法の施工 <input type="checkbox"/> 周辺環境への調査
<input type="checkbox"/> 工事支障物件等	<input type="checkbox"/> 占用物件の有無及び占用物件等による工事支障物の存在 <input type="checkbox"/> 地上、地下等の占用物件工事との重複施工
<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 工事用資機材の保管及び仮置き <input type="checkbox"/> 工事現場発生品 <input type="checkbox"/> 支給材料及び貸与品 <input type="checkbox"/> 関係機関・自治体等との近接工事協議に係る条件等 <input type="checkbox"/> 架設工法の指定 <input type="checkbox"/> 工事用水、電力等の指定 <input type="checkbox"/> 新技術・新工法・特許工法の指定 <input type="checkbox"/> 部分使用 <input type="checkbox"/> 給水の必要 <input type="checkbox"/> 電子納品対象工事特記仕様書

施工条件明示の詳細

■ 工程関係

施工時期、施工時間及び施工方法の制限(準備工期の設定等)

現場着工は、原則として令和5年10月1日以降とすること(現場調査を除く)。

■ 周辺環境関係

工事に伴う公害防止(騒音、振動、粉塵、排出ガス等)対策

南面道路及び西面道路境界沿いに、歩道から見やすい位置に騒音震度計を設置すること。

■ 安全対策関係

交通誘導警備員、警戒船等の保安設備、保安要員の配置

工事期間中は、通学路に配慮し交通誘導警備員を一人以上配置し、近隣住民等の安全を図る。

大型車両搬出時等には、久里浜田浦線との交差点に交通誘導警備員を配置し、通行人の安全を図る。

■ 工所用道路関係

搬入路の使用後及び使用後の処置

車両の搬出入口については、道路管理者と協議し現状に復す。

特記仕様書

仕様書の 適用範囲

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)・同解説」に準拠する。

共通仮設

工事場所及び資材置場を、うま、ロープ等で明確にし、安全表示板等により近隣住民及び通行者の安全をはかる。

動力用水光熱:工事に伴う水光熱は、使用に伴う費用、配管、配線および撤去、復旧等を含め請負人の負担とする。ただし、給水の引込みについては既存設備(使用停止中)を利用することができる。

直接仮設

工事範囲以外に粉塵等が飛散しないよう、養生を施すこと。

近隣住民及び通行者の安全を確保するよう、災害防止処置を施すこと。

解体・処分

施工については、「横須賀市建築物の解体工事等に伴う紛争の未然防止に関する条例」に準拠すること。

発生材は、原則として場外処分とする。

解体により生じた周辺のクラック等は、原形に復旧する。

日曜日、祝日に大きな騒音、振動の発生する作業については、騒音規制法及び振動規制法の規定により行わないこと。

搬出・処分は関係法令に抵触しないよう留意すること。

発生材の処分は、原則として再生工場持込とする。ただし、再生処分が出来ない物に限り、関係法令に抵触しないよう処分すること。

解体等で大きな騒音の発生する作業については、監督員と協議し施工すること。

単価及び共通費等に関する事項

1 単価等の採用根拠について

内訳書に掲載の単価等の採用根拠は、以下のとおりです。

A	建築工事標準市場単価表[建築・電気設備・機械設備]	非公開
	建築改修工事標準市場単価表[建築・電気設備・機械設備]	
	※上記単価表の単価は下記の歩掛等により作成	
	公共建築工事標準単価積算基準 公共建築工事積算基準等資料 公共建築工事積算研究会参考歩掛り 営繕積算システム等開発利用協議会参考資料 営繕積算システム等開発利用協議会歩掛り	
B	土木工事資材等単価表（神奈川県）	数量内訳書 見積単価等情報 にて公開
	市独自単価一覧表（土木工事編）	
C	建設物価、積算資料の2誌平均値による複合単価	
	建築施工単価・建築コスト情報との2誌平均値	
D	カタログ価格による複合単価	
	見積り及び見積りによる複合単価	
	工事が少量、僅少等の場合において補正を行ったA、BまたはCの単価	

- (1) Aの単価については、公表されている歩掛と刊行物に掲載の単価との複合単価であり、(一財)経済調査会及び(一財)建設物価調査会に著作権があるため、非公開とします。
なお、Aの単価を作成する際に使用している刊行物の採用月は、原則として単価表の適用月前月です。
- (2) Bの単価については、神奈川県HP（土木工事資材等単価表について）若しくは横須賀市HP（工事積算情報）に掲載しています。
神奈川県HP:<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/m2t/cnt/f4317/p12744.html>
横須賀市HP:<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/1623/koujitousekisann.html>
- (3) Cの単価については、一般に公表されている、または都市部建築計画課が独自に調査した材料価格以外の刊行物による単価であり、(一財)経済調査会及び(一財)建設物価調査会に著作権があるため非公開とします。
- (4) 単価の採用根拠についての内容に関する質疑等は、原則受け付けません。

2 単価世代及び共通費算定の根拠について

- (1) 建築工事標準市場単価表等は、令和5年7月1日単価を採用しています。
- (2) 建築工事主要資材単価表は、令和5年8月1日単価を採用しています。
- ~~(3) 共通仮設費率及び現場管理費率の算定に用いる工期Tは、4.5か月とします。~~
- (4) 共通仮設費率及び現場管理費率の算定式は、解体を採用しています。
- ~~(5) 改修工事における積算上の区分は、としています。~~
- ~~(6) 循環ろ過設備及び都市ガス設備は、その他工事として取扱います。~~
- ~~(7) 共通仮設費（積み上げ分含む）及び現場管理費は、敷地ごとに算定し合算しています。~~

3 その他

- (1) 工事価格は、原則として有効桁を上位4桁としています。ただし、一千万円未満の場合は、一万円単位としています。

久里浜公園水泳プール解体工事
工事費内訳

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
電気設備工事	1	式		
機械設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
換価格充当品	1	式		
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

久里浜公園水泳プール解体工事
機械設備工事 中科目別内訳

機械設備工事 (解体工事)					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
機器類撤去		1	式		
計					
配管類撤去		1	式		
計					
発生材処理	発生材運搬	1	式		
発生材処理	発生材処分	1	式		
計					

機械設備工事 中科目別内訳

機械設備工事 (一般工事)					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
給水設備		1	式		
計					
排水設備		1	式		
計					
発生材処理	発生土運搬	1	式		
発生材処理	発生土処分	1	式		
計					

管理棟解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(躯体)						
土間コンクリート解体	圧砕機		m ³			
鉄筋コンクリート解体	基礎部 圧砕機		m ³			
鉄筋コンクリート解体	地上部 圧砕機		m ³			
碎石解体	機械		m ³			
(外部)						
屋根シート防水撤去	集積共		m ²			
屋根カークレール撤去	堅型 鋳鉄製 径75用 集積共		カ所			
堅とい撤去	白ガース管 φ75 集積共		m			
床タイル撤去			m ²			
外壁タイル撤去			m ²			
看板文字(小)撤去	300角 PL-4.0 集積共		カ所			
看板文字(大)撤去	500角 PL-4.0 集積共		カ所			
外壁・間仕切コンクリートブロック撤去	厚100		m ²			
外壁・間仕切コンクリートブロック撤去	厚150		m ²			

建築工事 細目別内訳

管理棟解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(内部)						
床樹脂スリコ敷き撤去	集積共		m ²			
床フローリングブロック撤去	集積共		m ²			
床木床下地組撤去	H=300 東立て 大引:90×90 根太:45×40 @450 集積共		m ²			
床縁甲板撤去	集積共		m ²			
床の間床化粧ベニヤ撤去	集積共		m ²			
押入・棚板床ベニヤ撤去	集積共		m ²			
押入棚下地組撤去	集積共		m ²			
台所踏込上り框撤去	50×45 集積共		m			
ボート寄せ撤去	集積共		m			
木幅木撤去	H=100 集積共		m			
壁タイル撤去	集積共		m ²			
壁石膏ボード撤去	一重張り 集積共		m ²			
壁シタイル塗壁撤去	下地ボード共(厚20+ラスボード厚7) 集積共		m ²			
軽鉄壁下地撤去	集積共		m ²			

管理棟解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
木間仕切軸組撤去	集積共		m ²			
天井 吸音石膏ボード 撤去	一重張り 集積共		m ²			
天井 木野縁組撤去	45×45 @450 集積共		m ²			
天井 竿縁杉板ベニヤ撤去	一重張り 集積共		m ²			
天井 石膏ボード撤去	一重張り 集積共		m ²			
ポット預り所 カウンター撤去	W3280×D320×H780 2段 天板:ラワン厚40 側板:ラワン厚24 集積共		か所			
事務室 ベット上 棚撤去	W900×D250×H348 引違いガラス戸 天板:ラワン厚24 棚板:ラワン厚18 1段 背板:ベニヤ厚4 集積共		か所			
事務室 ベット撤去	W1800×D900×H500 バーケットフロア・耐水ベニヤ 引出し付 集積共		か所			
台所 木戸ベニヤ格子撤去	30×90 集積共		m			
流し台撤去	W1600×D600×H800/900 既製品 一層シンク+ガス台 集積共		か所			
台所 棚撤去	W1300×D300×H700 本体:ラワン厚24 棚板:ラワン厚24 1段 背板:耐水ベニヤ厚4 集積共		か所			
換気扇枠撤去	300角用 集積共		か所			
鏡撤去	集積共		m ²			
鏡下 ガラス棚撤去	W300×D100 集積共		か所			

管理棟解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(建具)						
アルミ製建具撤去	障子のみ 集積共		m ²			
鋼製建具撤去	シャッター 障子のみ 集積共		m ²			
木製建具撤去	襖 集積共		m ²			
トイレブース撤去	集積共		m ²			
隔て板撤去	集積共		m ²			
ガラス撤去	集積共		m ²			
重機回送費		1	式			
計						

管理棟解体撤去工事		発生材処理		運搬		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(積込み)						
コンクリート類 集積、積込み	機 械		m3			
コンクリート類(CB) 集積、積込み	機 械		m3			
内装材 積込み	機 械		m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホ1.4m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 4.5km以下		m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホ1.4m3 無筋コンクリート類(CB) DID区間有り 4.5km以下		m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 石こうボード類 DID区間有り 4.5km以下		m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 木材類 DID区間有り 4.5km以下		m3			
計						

建築工事 細目別内訳

管理棟解体撤去工事		発生材処理		処分		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
コンクリート塊	無筋 30cm以下		t			
コンクリート塊 (CB)	無筋 30cm以下		t			
がれき類			m3			
安定型混合廃棄物			m3			
管理型混合廃棄物			m3			
木屑			m3			
廃プラスチック類			m3			
計						

機械室解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(躯体)						
鉄筋コンクリート解体	基礎部 圧砕機		m ³			
捨てコンクリート解体	圧砕機		m ³			
砕石解体	機械		m ³			
埋戻し(B種)	- 発生土		m ³			
(外部)						
機械室「レハフ」 上屋撤去	W4300×D3300×H3100/2900 建具・ガラス共 基礎別計上 集積共		か所			
手摺撤去	H=900 手摺・下棧:白ガス管 25A 支柱:白ガス管 格子:φ20 @150 集積共		m			
計						

建築工事 細目別内訳

機械室解体撤去工事		発生材処理		運搬		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(積込み)						
コンクリート類 集積、積込み	機械		m ³			
内装材 積込み	機械		m ³			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホり1.4m ³ 無筋コンクリート類 DID区間有り 4.5km以下		m ³			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 2t積級 バックホり0.13m ³ 石こうボード類 DID区間有り 4.5km以下		m ³			
計						

久里浜公園水泳プール解体工事
 建築工事 細目別内訳

プール・外構解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
屋外階段撤去	W=6500 RC階段 圧砕機		か所			
浄化槽撤去	2300×6400×H1700/2400 RC造 地業共 圧砕機		か所			
高木伐採抜根	常緑樹 H9.0×C0.6×W7.0m 集積共		本			
高木伐採抜根	キョウチクトウ H3.0×C0.05×W3.0m 10本/株 集積共		株			
中木伐採抜根	つつじ H2.0×C0.05×W2.0m 10本/株 集積共		株			
中木伐採抜根	キョウチクトウ H2.0×C0.05×W5.0m 20本/株 集積共		株			
下草刈込	集積共		㎡			
根切り	総掘り 法付オープンカット		m3			
床付け	総掘り		㎡			
埋戻し(B種)	- 発生土		m3			
計						

建築工事 細目別内訳

プール・外構解体撤去工事		その他工事				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
既存ネットフェンス面 防砂ネット	H=2000	1	式			
B型ハケート面 防砂ネット	H=1800	1	式			
B型ハケート	H=1800	1	式			
西側 歩道切り下げ	5700×2100 12.0㎡ アスファルト厚50 縁石 共		か所			
同上 歩道切り下げ 工事終了後復旧	5700×2100 12.0㎡ アスファルト厚50 縁石 共		か所			
計						

プール・外構解体撤去工事		発生材処理		運搬		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(積込み)						
コンクリート類 集積、積込み	機 械		m3			
内装材 積込み	機 械		m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホウ1.4m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 4.5km以下		m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 2t積級 バックホウ0.13m3 石こうボード類 DID区間有り 4.5km以下		m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホウ0.28m3 木材類 DID区間有り 4.5km以下		m3			
建設発生土運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホウ0.8m3 土砂 DID区間有り 3.0km以下		m3			
計						

建築工事 細目別内訳

プール・外構解体撤去工事		発生材処理		処分		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
コンクリート塊	無筋 30cm以下		t			
がれき類			m3			
安定型混合廃棄物			m3			
木屑			m3			
廃プラスチック類			m3			
生木			m3			
土砂			m3			
計						

久里浜公園水泳プール解体工事
機械設備工事 細目別内訳

機械設備工事 (解体工事)		配管類撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
給水管撤去	20GP 屋外埋設		m			
給水管撤去	25GP 屋外埋設		m			
給水管撤去	32GP 屋外埋設		m			
給水管撤去	40GP 屋外埋設		m			
給水管撤去	50GP 屋外埋設		m			
給水管撤去	80GP 屋外埋設		m			
給水管撤去	20GP 屋内一般		m			
給水管撤去	20GP 便所		m			
給水管撤去	25GP 便所		m			
量水器取外し	40mm		個			
量水器取外し	75mm		個			
量水器ボックス撤去	20mm用		個			
量水器ボックス撤去	40mm用		個			
量水器ボックス撤去	75mm用	1	式			
給水管閉栓工事	40mm アスファルト舗装壊し復旧含む	1	式			

機械設備工事 細目別内訳

機械設備工事 (解体工事)		配管類撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
排水管撤去	100VU 屋外埋設		m			
排水管撤去	150VU 屋外埋設		m			
排水管撤去	50VP 屋内一般		m			
排水管撤去	150VP 屋内一般		m			
排水管撤去	40VP 便所		m			
排水管撤去	50VP 便所		m			
排水管撤去	75VP 便所		m			
排水管撤去	100VP 便所		m			
排水樹撤去	コンクリート製 350□ ～500H 鋳鉄製蓋共		組			
排水樹撤去	コンクリート製 450□ ～800H 鋳鉄製蓋共		組			
排水樹撤去	コンクリート製 600□ ～1200H 鋳鉄製蓋共		組			
排水樹撤去	コンクリート製 450□ ～800H コンクリート製蓋共		組			
排水樹撤去	コンクリート製 600□ ～1200H コンクリート製蓋共		組			
床上掃除口撤去	80C0A		個			
床上掃除口撤去	100C0A		個			

数量内訳書 見積単価等情報

都市部 建築計画課

- ※ この数量内訳書の数量は参考です、入札者は独自に積算し入札すること。
掲載された単価は本市が設計価格算出の為に採用したもので、入札者の下請負 金額
等を保証するものではありません。
また、金額に関する質疑等は原則、受け付けません。

久里浜公園水泳プール解体工事
工事費内訳

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
電気設備工事	1	式		
機械設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
換価格充当品	1	式		
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

機械設備工事 (解体工事)					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
機器類撤去		1	式		
計					
配管類撤去		1	式		
計					
発生材処理	発生材運搬	1	式		
発生材処理	発生材処分	1	式		
計					

機械設備工事 中科目別内訳

機械設備工事 (一般工事)					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
給水設備		1	式		
計					
排水設備		1	式		
計					
発生材処理	発生土運搬	1	式		
発生材処理	発生土処分	1	式		
計					

久里浜公園水泳プール解体工事
 建築工事 細目別内訳

管理棟解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(躯体)						
土間コンクリート解体	圧砕機	17.8	m ³			
鉄筋コンクリート解体	基礎部 圧砕機	12.4	m ³			
鉄筋コンクリート解体	地上部 圧砕機	33.5	m ³			
碎石解体	機械	22.7	m ³			
(外部)						
屋根シート防水撤去	集積共	198	m ²			
屋根カークレール撤去	堅型 鋳鉄製 径75用 集積共	4	カ所			
堅とい撤去	白ガスパ管 φ75 集積共	12.3	m			
床タイル撤去		5.9	m ²			
外壁タイル撤去		12.1	m ²			
看板文字(小)撤去	300角 PL-4.0 集積共	5	カ所			
看板文字(大)撤去	500角 PL-4.0 集積共	3	カ所			
外壁・間仕切コンクリートブロック撤去	厚100	35.2	m ²			
外壁・間仕切コンクリートブロック撤去	厚150	159	m ²			

建築工事 細目別内訳

管理棟解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(内部)						
床樹脂スリコ敷き撤去	集積共	56.6	m ²			
床フローリングブロック撤去	集積共	11.7	m ²			
床木床下地組撤去	H=300 東立て 大引:90×90 根太:45×40 @450 集積共	26.7	m ²			
床縁甲板撤去	集積共	12.2	m ²			
床の間床化粧ベニヤ撤去	集積共	1.3	m ²			
押入・棚板床ベニヤ撤去	集積共	4.7	m ²			
押入棚下地組撤去	集積共	3.2	m ²			
台所踏込上り框撤去	50×45 集積共	2.5	m			
ポット寄せ撤去	集積共	12.1	m			
木幅木撤去	H=100 集積共	13.6	m			
壁タイル撤去	集積共	32	m ²			
壁石膏ボード撤去	一重張り 集積共	19	m ²			
壁シッコイ塗壁撤去	下地ボード共(厚20+ラスボード厚7) 集積共	13.6	m ²			
軽鉄壁下地撤去	集積共	10.6	m ²			

管理棟解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
木間仕切軸組撤去	集積共	4.7	m ²			
天井 吸音石膏ボード 撤去	一重張り 集積共	43.2	m ²			
天井 木野縁組撤去	45×45 @450 集積共	66.3	m ²			
天井 竿縁杉板ベニヤ撤去	一重張り 集積共	12.9	m ²			
天井 石膏ボード撤去	一重張り 集積共	10.2	m ²			
ポット預り所 カウンター撤去	W3280×D320×H780 2段 天板:ラワン厚40 側板:ラワン厚24 集積共	1	か所			
事務室 ベット上 棚撤去	W900×D250×H348 引違いガラス戸 天板:ラワン厚24 棚板:ラワン厚18 1段 背板:ベニヤ厚4 集積共	1	か所			
事務室 ベット撤去	W1800×D900×H500 バーケットフロア・耐水ベニヤ 引出し付 集積共	1	か所			
台所 木ルーフ格子撤去	30×90 集積共	7.2	m			
流し台撤去	W1600×D600×H800/900 既製品 一層シンク+ガス台 集積共	1	か所			
台所 棚撤去	W1300×D300×H700 本体:ラワン厚24 棚板:ラワン厚24 1段 背板:耐水ベニヤ厚4 集積共	1	か所			
換気扇枠撤去	300角用 集積共	1	か所			
鏡撤去	集積共	0.5	m ²			
鏡下 ガラス棚撤去	W300×D100 集積共	2	か所			

管理棟解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(建具)						
アルミ製建具撤去	障子のみ 集積共	49.9	m ²			
鋼製建具撤去	シャッター 障子のみ 集積共	2.5	m ²			
木製建具撤去	襖 集積共	0.9	m ²			
トイレブース撤去	集積共	6.7	m ²			
隔て板撤去	集積共	1.9	m ²			
ガラス撤去	集積共	36	m ²			
重機回送費		1	式			別紙 00-0001
計						

管理棟解体撤去工事		発生材処理		運搬		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(積込み)						
コンクリート類 集積、積込み	機 械	85.7	m3			
コンクリート類 (CB) 集積、積込み	機 械	27.3	m3			
内装材 積込み	機 械	9.1	m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホ1.4m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 4.5km以下	85.7	m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホ1.4m3 無筋コンクリート類 (CB) DID区間有り 4.5km以下	27.3	m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 石こうボード類 DID区間有り 4.5km以下	3	m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 木材類 DID区間有り 4.5km以下	6.1	m3			
計						

建築工事 細目別内訳

管理棟解体撤去工事		発生材処理		処分		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
コンクリート塊	無筋 30cm以下	197	t			
コンクリート塊 (CB)	無筋 30cm以下	35.5	t			
がれき類		22.7	m3			
安定型混合廃棄物		1.8	m3			
管理型混合廃棄物		1.2	m3			
木屑		2.4	m3			
廃プラスチック類		3.7	m3			
計						

機械室解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(躯体)						
鉄筋コンクリート解体	基礎部 圧砕機	32.4	m3			
捨てコンクリート解体	圧砕機	2.5	m3			
砕石解体	機械	5	m3			
埋戻し(B種)	- 発生土	45.3	m3			
(外部)						
機械室フレハフ 上屋撤去	W4300×D3300×H3100/2900 建具・ガラス共 基礎別計上 集積共	1	か所			
手摺撤去	H=900 手摺・下棧:白ガス管 25A 支柱:白ガス管 格子:φ20 @150 集積共	21.1	m			
計						

建築工事 細目別内訳

機械室解体撤去工事		発生材処理		運搬		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(積込み)						
コンクリート類 集積、積込み	機械	40.3	m3			
内装材 積込み	機械	0.3	m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホり1.4m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 4.5km以下	45.3	m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 2t積級 バックホり0.13m3 石こうボード類 DID区間有り 4.5km以下	0.3	m3			
計						

久里浜公園水泳プール解体工事
 建築工事 細目別内訳

プール・外構解体撤去工事		解体撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
屋外階段撤去	W=6500 RC階段 圧砕機	1	か所			
浄化槽撤去	2300×6400×H1700/2400 RC造 地業共 圧砕機	1	か所			
高木伐採抜根	常緑樹 H9.0×C0.6×W7.0m 集積共	1	本			
高木伐採抜根	キョウチクトウ H3.0×C0.05×W3.0m 10本/株 集積共	43	株			
中木伐採抜根	つつじ H2.0×C0.05×W2.0m 10本/株 集積共	22	株			
中木伐採抜根	キョウチクトウ H2.0×C0.05×W5.0m 20本/株 集積共	1	株			
下草刈込	集積共	1,120	m ²			
根切り	総掘り 法付オープンカット	1,666	m ³			
床付け	総掘り	1,847	m ²			
埋戻し(B種)	発生土	325	m ³			
計						

建築工事 細目別内訳

プール・外構解体撤去工事		その他工事				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
既存ネットフェンス面 防砂ネット	H=2000	1	式			別紙 00-0002
B型ハケリケット面 防砂ネット	H=1800	1	式			別紙 00-0003
B型ハケリケット	H=1800	1	式			別紙 00-0004
西側 歩道切り下げ	5700×2100 12.0m ² アスファルト厚50 縁石 共	1	か所			
同上 歩道切り下げ 工事終了後復旧	5700×2100 12.0m ² アスファルト厚50 縁石 共	1	か所			
計						

プール・外構解体撤去工事		発生材処理		運搬		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(積込み)						
コンクリート類 集積、積込み	機 械	415	m3			
内装材 積込み	機 械	51.7	m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホウ1.4m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 4.5km以下	579	m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 2t積級 バックホウ0.13m3 石こうボード類 DID区間有り 4.5km以下	0.8	m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホウ0.28m3 木材類 DID区間有り 4.5km以下	50.9	m3			
建設発生土運搬	ダンプトラック 10t積級 バックホウ0.8m3 土砂 DID区間有り 3.0km以下	1,296	m3			
計						

建築工事 細目別内訳

プール・外構解体撤去工事		発生材処理		処分		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
コンクリート塊	無筋 30cm以下	956	t			
がれき類		164	m3			
安定型混合廃棄物		0.8	m3			
木屑		0.1	m3			
廃プラスチック類		11.1	m3			
生木		39.8	m3			
土砂		1,555	m3			
計						

久里浜公園水泳プール解体工事
機械設備工事 細目別内訳

機械設備工事 (解体工事)		配管類撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
給水管撤去	20GP 屋外埋設	33	m			
給水管撤去	25GP 屋外埋設	6	m			
給水管撤去	32GP 屋外埋設	15	m			
給水管撤去	40GP 屋外埋設	21	m			
給水管撤去	50GP 屋外埋設	11	m			
給水管撤去	80GP 屋外埋設	23	m			
給水管撤去	20GP 屋内一般	19	m			
給水管撤去	20GP 便所	27	m			
給水管撤去	25GP 便所	3	m			
量水器取外し	40mm	1	個			
量水器取外し	75mm	1	個			
量水器ボックス撤去	20mm用	1	個			
量水器ボックス撤去	40mm用	1	個			
量水器ボックス撤去	75mm用	1	式			別紙 00-0020
給水管閉栓工事	40mm アスファルト舗装壊し復旧含む	1	式			別紙 00-0021

機械設備工事 細目別内訳

機械設備工事 (解体工事)		配管類撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
排水管撤去	100VU 屋外埋設	11	m			
排水管撤去	150VU 屋外埋設	193	m			
排水管撤去	50VP 屋内一般	3	m			
排水管撤去	150VP 屋内一般	7	m			
排水管撤去	40VP 便所	8	m			
排水管撤去	50VP 便所	5	m			
排水管撤去	75VP 便所	10	m			
排水管撤去	100VP 便所	5	m			
排水樹撤去	コンクリート製 350□ ～500H 鋳鉄製蓋共	7	組			
排水樹撤去	コンクリート製 450□ ～800H 鋳鉄製蓋共	1	組			
排水樹撤去	コンクリート製 600□ ～1200H 鋳鉄製蓋共	2	組			
排水樹撤去	コンクリート製 450□ ～800H コンクリート製蓋共	4	組			
排水樹撤去	コンクリート製 600□ ～1200H コンクリート製蓋共	1	組			
床上掃除口撤去	80COA	1	個			
床上掃除口撤去	100COA	1	個			

電気設備工事		電灯設備				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
撤去		1	式			別紙 00-0017
電灯分電盤	W500xH400xD100 ELCB 3P 60Ax1 ELCB 2P 20Ax4	1	面			
変圧器	1kVA	1	台			
電力量計		2	台			
ブレーカ	MCCB 2P 20A	3	個			
プルボックス	150x150x150 プラスチック製	10	個			
プルボックス	250x250x200	1	個			
蛍光灯器具 撤去	露出形 FL 40W ×1 再使用しない	6	個			
蛍光灯器具 撤去	露出形 FL 40W ×2 再使用しない	3	個			
蛍光灯器具 撤去	露出形 FL 20W ×1 再使用しない	2	個			
蛍光灯器具 撤去	露出形 FL 20W ×2 再使用しない	4	個			
白熱灯器具 撤去	シーリングライト 再使用しない	1	個			
白熱灯器具 撤去	コードペンダント 再使用しない	2	個			
白熱灯器具 撤去	ブラケットライト 再使用しない	2	個			
ホーンスピーカー		3	台			

電気設備工事 別紙明細

電気設備工事		電灯設備				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
撤去		1	式			別紙 00-0017
支柱	1.0m	7	本			
鋼管ポール	2.5m	1	本			
鋼管ポール	3.5m	1	本			
木柱	4.5m	1	本			
CVケーブル	8mm ² -3C	23	m			
CVTケーブル	22mm ²	89	m			
AEケーブル	1.2 -2C	198	m			
HPケーブル	1.2 -3C	55	m			
厚鋼電線管 撤去	(G16) 再使用しない	4	m			
合成樹脂製可とう 電線管 (PP管、CD管)撤去	22 再使用しない	155	m			
波付硬質合成樹脂 管	FEP30	79	m			
波付硬質合成樹脂 管	FEP40	57	m			
運搬費	産廃運搬距離 25km 2tダンプ車使用	1	回			
計						

久里浜公園水泳プール解体工事
機械設備工事 別紙明細

機械設備工事 (解体工事)		配管類撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
量水器ボックス撤去	75mm用	1	式			別紙 00-0020
根切り(人力)		5.8	m ³			
量水器ボックス取壊し		1	か所			
埋戻し	人力 根切り土	5.8	m ³			
砂利地業	切込み砕石(再生)	3.4	m ³			
既設铸铁管切断	80A	1	か所			
铸铁管用DIP形継手	80A	1	個			
K形短管1号	80A	1	個			
フランジ(形式1)	80A	1	組			
フランジ 接合部品	80A	1	個			
計						

機械設備工事 別紙明細

機械設備工事 (解体工事)		配管類撤去				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
給水管閉栓工事	40mm アスファルト舗装壊し復旧含む	1	式			別紙 00-0021
(給水管閉塞)						
アスファルト舗装切断		8	m			
アスファルト舗装掘削積込		3.2	m ²			
根切り(機械)	バックホウ 0.13m ³ 排出ガス対策型 油圧式クローラ型	2.2	m ³			
根切り(人力)	管路廻り	2.2	m ³			
分水閉栓	40mm	1	か所			
埋戻し	改良土	4.4	m ³			
路盤工		3.2	m ²			
アスファルト舗装(人力)	仮復旧	3.2	m ²			
砂利部壊し復旧	5cm	1.2	m ²			
(路面本復旧)						
アスファルト舗装切断		8	m			
アスファルト舗装掘削積込		12	m ²			
アスファルト舗装(人力)	本復旧 路面標示復旧含む	12	m ²			

機械設備工事 (一般工事)		排水設備				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
既設管接続		1	式			別紙 00-0024
既設管接続	150A 保温無	2	か所			
計						
土工事 (排水)		1	式			別紙 00-0025
根切り (機械)	バックホウ 0.13m3 排出ガス対策型 油圧式クローラ型	1.1	m3			
埋戻し	機械 バックホウ 0.13m3 排出ガス対策型 油圧式クローラ型	0.9	m3			
山砂		0.2	m3			
計						

名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
共通仮設費(積上)		1	式			別紙 00-0014
仮設鉄板敷	供用90日賃料 敷鉄板 1524×6096×22mm 3ヵ月以下 運搬共	102	m ²			
仮囲い	供用90日賃料 修理費含む 仮囲鉄 板 H=2.0m t=1.2mm w=500 - 運搬共	59	m			
パネルゲート	W=7.2m	1	か所			
交通誘導警備員B		204	人			
騒音振動計		2	か所			
土砂検定費	28項目	1	検体			
計						

換価格充当品 別紙明細

名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
換価格充当品		1	式			別紙 00-0016
有価物	鉄 ヘビ ⁺ -H3	▲3.4	t			
有価物	アルミ屑	▲759.5	kg			
有価物	鉄 ヘビ ⁺ -H2	▲29.1	t			
処分費	鉄A	63	kg			
処分費	ケーブル(低圧)	73	kg			
計						

仕分け 1 内訳

1

公開						
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
建築工事	管理棟解体撤去工事 解体撤去					
土間コンクリート解体	圧砕機	17.8	m ³	32,900	585,620	
鉄筋コンクリート解体	基礎部 圧砕機	12.4	m ³	37,900	469,960	
鉄筋コンクリート解体	地上部 圧砕機	33.5	m ³	27,800	931,300	
碎石解体	機械	22.7	m ³	21,500	488,050	
屋根 シート防水撤去	集積共	198	m ²	3,540	700,920	
屋根 ルーフレン撤去	堅型 鑄鉄製 径75用 集積共	4	か所	380	1,520	
堅とい撤去	白カス管 φ75 集積共	12.3	m	380	4,674	
床 タイル撤去		5.9	m ²	3,160	18,644	
外壁 タイル撤去		12.1	m ²	3,160	38,236	
看板文字(小)撤去	300角 PL-4.0 集積共	5	か所	380	1,900	
看板文字(大)撤去	500角 PL-4.0 集積共	3	か所	630	1,890	
外壁・間仕切 コンクリートブロック撤去	厚100	35.2	m ²	3,160	111,232	
外壁・間仕切 コンクリートブロック撤去	厚150	159	m ²	4,430	704,370	
床 樹脂スリコ置敷き 撤去	集積共	56.6	m ²	570	32,262	

仕分け 1 内訳

2

公開						
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
床 フローリングブロック撤去	集積共	11.7	m ²	1,260	14,742	
床 木床下地組撤去	H=300 束立て 大引:90×90 根太:45×40 @450 集積共	26.7	m ²	1,260	33,642	
床 縁甲板撤去	集積共	12.2	m ²	1,260	15,372	
床の間床 化粧ベニヤ撤去	集積共	1.3	m ²	890	1,157	
押入・棚板床 ベニヤ撤去	集積共	4.7	m ²	890	4,183	
押入棚 下地組撤去	集積共	3.2	m ²	1,260	4,032	
台所踏込 上り框撤去	50×45 集積共	2.5	m	1,640	4,100	
ボート寄せ撤去	集積共	12.1	m	1,010	12,221	
木幅木撤去	H=100 集積共	13.6	m	630	8,568	
壁 タイル撤去	集積共	32	m ²	3,160	101,120	
壁 石膏ボード撤去	一重張り 集積共	19	m ²	2,280	43,320	
壁 シタリ塗壁撤去	下地ボード共(厚20+ラスボード厚7) 集積共	13.6	m ²	2,530	34,408	
軽鉄壁下地撤去	集積共	10.6	m ²	1,010	10,706	
木間仕切軸組撤去	集積共	4.7	m ²	1,260	5,922	
天井 吸音石膏ボード 撤去	一重張り 集積共	43.2	m ²	1,900	82,080	

仕分け1 内訳

公開						
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
天井 木野縁組撤去	45×45 @450 集積共	66.3	m ²	1,520	100,776	
天井 竿縁杉柵へ ^ニ 撤去	一重張り 集積共	12.9	m ²	1,260	16,254	
天井 石膏ボード撤去	一重張り 集積共	10.2	m ²	1,900	19,380	
コート預り所 カウンター撤去	W3280×D320×H780 2段 天板:珚璃厚40 側板:珚璃厚24 集積共	1	か所	19,000	19,000	
事務室 ベット上 棚撤去	W900×D250×H348 引違いガラス戸 天板:珚璃厚24 棚板:珚璃厚18 1段 背板:へ ^ニ 厚4 集積共	1	か所	8,850	8,850	
事務室 ベット撤去	W1800×D900×H500 パ ^ー カットフロア・耐水へ ^ニ 引出し付 集積共	1	か所	16,400	16,400	
台所 木製パ ^ー 格子撤去	30×90 集積共	7.2	m	380	2,736	
流し台撤去	W1600×D600×H800/900 既製品 一層珚璃+ガス台 集積共	1	か所	15,200	15,200	
台所 棚撤去	W1300×D300×H700 本体:珚璃厚24 棚板:珚璃厚24 1段 背板:耐水へ ^ニ 厚4 集積共	1	か所	12,600	12,600	
換気扇枠撤去	300角用 集積共	1	か所	630	630	
鏡撤去	集積共	0.5	m ²	1,900	950	
鏡下 ガラス棚撤去	W300×D100 集積共	2	か所	2,530	5,060	
アルミ製建具撤去	障子のみ 集積共	49.9	m ²	1,010	50,399	
鋼製建具撤去	シャッター 障子のみ 集積共	2.5	m ²	1,010	2,525	

仕分け1 内訳

公開						
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
木製建具撤去	襖 集積共	0.9	m ²	1,900	1,710	
トリア ^ー 撤去	集積共	6.7	m ²	2,280	15,276	
隔て板撤去	集積共	1.9	m ²	1,260	2,394	
ガラス撤去	集積共	36	m ²	1,260	45,360	
建築工事	機械室解体撤去工事 解体撤去					
鉄筋コンクリート解体	基礎部 圧砕機	32.4	m ³	37,900	1,227,960	
捨てコンクリート解体	圧砕機	2.5	m ³	22,800	57,000	
碎石解体	機械	5	m ³	21,500	107,500	
機械室ア ^レ フ ^フ 上屋撤去	W4300×D3300×H3100/2900 建具・ガラス共 基礎別計上 集積共	1	か所	253,000	253,000	
手摺撤去	H=900 手摺・下棧:白ガス管 25A 支柱:白ガス管 格子:φ20 @150 集積共	21.1	m	1,260	26,586	
建築工事	ア ^ー ル・外構解体撤去工事 解体撤去					
25mア ^ー ル撤去	W25600×D17160 現場打コンクリート NDシートWB・NDシートWBP ND鋼板共 地業共 圧砕機	1	か所	8,850,000	8,850,000	
幼児用ア ^ー ル撤去	W16040 変形形状 現場打コンクリート NDシートWB・NDシートWBP ND鋼板共 地業共 圧砕機	1	か所	3,790,000	3,790,000	
階段踏面 タイル撤去	集積共	19.8	m ²	3,160	62,568	

仕分け1 内訳

5

公開							
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
アール廻り床 樹脂スリ撤去	集積共	925	m ²	570	527,250		
アール廻り床 土間コンクリート撤去	厚80 ワイヤメッシュφ6-100×100共 集積 圧砕機	925	m ²	2,150	1,988,750		
アール廻り土間下 路盤撤去	厚100 特殊効果果上路盤 集積共	925	m ²	2,530	2,340,250		
パゴラ撤去	屋根 6000×3800 垂木:□-75×45×2.3 下地:□-100×50×2.3 支柱:□-100×50×2.3 4本 集積共	1	か所	25,300	25,300		
ベンチ撤去	W1800×D600×H180/570 集積共	1	式		37,900		
U字溝撤去	180×180 既製コンクリート	40.6	m	3,160	128,296		
集水樹撤去	360×360 既製コンクリート	5	か所	2,530	12,650		
ネットフェンス撤去	H=2000 基礎共 集積共 圧砕機	42.6	m	5,060	215,556		
縁石撤去	120×120 既製コンクリート	177	m	1,520	269,040		
屋外階段撤去	W=3300 RC階段 圧砕機	1	か所	37,900	37,900		
屋外階段撤去	W=6500 RC階段 圧砕機	1	か所	63,200	63,200		
浄化槽撤去	2300×6400×H1700/2400 RC造 地業共 圧砕機	1	か所	443,000	443,000		
高木伐採抜根	常緑樹 H9.0×C0.6×W7.0m 集積共	1	本	126,000	126,000		
高木伐採抜根	キョウチクトウ H3.0×C0.05×W3.0m 10本/株 集積共	43	株	10,100	434,300		

仕分け1 内訳

6

公開							
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
中木伐採抜根	つつじ H2.0×C0.05×W2.0m 10本/株 集積共	22	株	6,320	139,040		
中木伐採抜根	キョウチクトウ H2.0×C0.05×W5.0m 20本/株 集積共	1	株	12,600	12,600		
下草刈込	集積共	1,120	m ²	380	425,600		
建築工事	アール・外構解体撤去工事 その他工事						
既存ネットフェンス面 防砂ネット	H=2000	1	式			別紙 00-0002	
既存ネットフェンス面 防砂ネット	H=2000	114	m	1,520	173,280		
B型パレケット面 防砂ネット	H=1800	1	式			別紙 00-0003	
B型パレケット面 防砂ネット	H=1800	8	m	1,260	10,080		
B型パレケット	H=1800	1	式			別紙 00-0004	
B型パレケット	H=1800	64.5	m	6,320	407,640		
B型パレケット	H=1800 南京錠付	1	か所	25,300	25,300		
西側 歩道切り下げ	5700×2100 12.0m ² アスファルト厚50 縁石 共	1	か所	520,000	520,000		
同上 歩道切り下げ 工事終了後復旧 建築工事	5700×2100 12.0m ² アスファルト厚50 縁石 共 アール・外構解体撤去工事 発生材処理 処分	1	か所	350,000	350,000		
生木		39.8	m ³	31,600	1,257,680		

仕分け1 内訳

7

公開						
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
機械設備工事	機械設備工事(解体工事) 配管類撤去					
量水器ボックス撤去	75mm用	1	式			別紙 00-0020
量水器ボックス取壊し		1	か所	55,500	55,500	
既設铸铁管切断	80A	1	か所	2,550	2,550	
铸铁管用DIP形継手	80A	1	個	4,320	4,320	
K形短管1号	80A	1	個	4,320	4,320	
フランジ(形式1)	80A	1	組	10,600	10,600	
フランジ接合部品	80A	1	個	2,770	2,770	
給水管閉栓工事	40mm アスファルト舗装壊し復旧含む	1	式			別紙 00-0021
アスファルト舗装切断		8	m	1,500	12,000	
アスファルト舗装掘削積込		3.2	m ²	2,710	8,672	
分水閉栓	40mm	1	か所	35,000	35,000	
埋戻し	改良土	4.4	m ³	29,400	129,360	
路盤工		3.2	m ²	2,400	7,680	
アスファルト舗装(人力)	仮復旧	3.2	m ²	4,870	15,584	

仕分け1 内訳

8

公開						
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
砂利部壊し復旧	5cm	1.2	m ²	1,300	1,560	
アスファルト舗装切断		8	m	1,500	12,000	
アスファルト舗装掘削積込		12	m ²	2,710	32,520	
アスファルト舗装(人力)	本復旧 路面標示復旧含む	12	m ²	4,870	58,440	
機械設備工事	機械設備工事(一般工事) 給水設備					
量水器ボックス	20mm用 樹脂製 量水器用可とう管・逆止弁付量水器 パルプ・SSP管含む	1	式		80,360	
計					29,620,113	
(共通仮設)						
騒音振動計		2	か所	569,000	1,138,000	